

VII 平成 27 年度 目標の達成状況

平成 26 年 8 月に『愛知県図書館の基本的な運営方針』（以下『方針』という。）に基づいて、前半の平成 26 年度から 30 年度までの 5 年間における運営に関する 5 つの指標の選定と目標を設定した。

5 つの指標は、『方針』の愛知県図書館の 4 つの役割に沿っている。以下に示す 2 年目の平成 27 年度の達成状況は、前年度の 26 年度実績を下回る指標もあるが、今後も年度毎の点検・評価と改善を繰り返して、30 年度の目標達成を目指すものである。

II 愛知県図書館の役割

- 1 愛知県のすみずみまで図書館サービスを届けます。
- 2 市町村立図書館や公民館図書室の運営を支援します。
- 3 図書館や関係機関のネットワークをつくります。
- 4 図書館活動を支える県図書館の体制を整えます。

『愛知県図書館の基本的な運営方針』

指標 1	25 年度実績 (A)	27 年度実績 (B)	比率 B/A	目 標 (30 年度)
利用登録者数	46,543 人	45,798 人	98.4%	52,000 人

○県図書館の利用登録者数は、近年入館者数とともに連続して数%ずつ減少傾向にあり、27 年度も前年度より 1.3 パーセント減少し、25・26 年度比より減少率が 1 ポイント増加した。新規登録者数は 26 年度は音楽配信サービスの開始等新規事業の影響で 1 割増となったが、27 年度は 25 年度の水準に戻った。

○利用登録者数の着実な増加を目指して、登録更新を郵便で受付けるなどの新たなサービスや通信技術等を利用した効果的な広報に、今後も引き続き努めていく。また、他都道府県立図書館の利用数の推移にも留意し参考にする。

区 分	25 年度	26 年度	27 年度	前年比
利用登録者数（人）	46,543	46,409	45,798	98.7%
うち新規登録者数（人）	14,425	15,697	14,686	93.6%
入館者数（人）	614,901	607,148	602,615	99.3%

※利用登録者数：各年度末時点で有効期限内（発行後 3 年）の利用カードを所持する利用者の数

指標 2	25 年度実績 (A)	27 年度実績 (B)	比率 B/A	目 標 (30 年度)
遠隔地返却の利用数	2,516 冊・点	2,871 冊・点	114.1%	3,200 冊・点

○対象の 18 市町村に在住する当館の利用登録者数は、28 年 4 月現在 2,129 人で、26 年度より 146 人増加しており、遠隔地返却の利用数は 2 年間で 14.1%増加した。24 年度の開始から 4 年経過し、対象外の市町村の利用者からも要望や問い合わせが寄せられている。

○今後は、対象市町村を増やすことに力点を置き、従来より県図書館に近い市町村立図書館に協力を求めている。ただし、近距離の市町村ほど制度を利用できる登録者が多いことから、利用者及び市町村立図書館の負担が少ない形でスムーズな処理を行うため、資料搬送の増便やオンラインシステムの構築を図る。

※「遠隔地返却」

利用者個人が県図書館で借りた資料を、最寄りの市町村立図書館の窓口で返却できるサービス。

平成 28 年 4 月現在 18 市町村対象。（東三河：豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村、西三河：岡崎市、碧南市、西尾市、高浜市、幸田町、知多：半田市、常滑市、南知多町、美浜町、武豊町）

指標 3	25 年度実績 (A)	27 年度実績 (B)	比率 B/A	目 標 (30 年度)
ラストワン参加市町村数	37 市町村	42 市町村	113.5%	48 市町村

○愛知県内の公立図書館が所蔵する希少な資料を保存するためのあいちラストワン・プロジェクトは、28 年 2 月時点でラストワン候補を特定し参加自治体に通知した。27 年度は新たに 3 館がプロジェクトに参加している。

○未参加自治体には問題点や課題等を聴取したうえで解決に向けてアドバイスをを行い、プロジェクト参加を働きかけていく。

指標 4	25 年度実績 (A)	27 年度実績 (B)	比率 B/A	目 標 (30 年度)
県内及び東海・北陸地区の 協力貸出・相互貸借数	61,060 冊・点	67,659 冊・点	110.8%	70,000 冊・点

○県内市町村立図書館への協力貸出と県内市町村立図書館間の相互貸借冊（点）数は、定期便の週 2 便化の試行を 9 館に増やしたこともあり 11.4%増加した。

○27 年 7 月に福井県立図書館との資料搬送定期便を本実施に移行し、東海北陸地区のすべての県立図書館とのネットワークが完成した。これにより東海北陸地区の図書館への協力貸出と相互貸借は 8.9%増加した。

○今後も引き続き、東海北陸地区公共図書館協議会の場などを通じて相互の連携を深めていく。

区 分		25 年度	26 年度	27 年度	前年比
県内市町村立図書館 (冊・点)	協力貸出	18,682	18,313	20,282	110.8%
	相互貸借	39,150	38,783	43,319	111.7%
	計	57,832	57,096	63,601	111.4%
県内を除く 東海北陸の図書館 (冊・点)	協力貸出	1,234	1,196	1,477	123.5%
	相互貸借	1,994	2,319	2,581	111.3%
	計	3,228	3,515	4,058	108.9%
合 計		61,060	60,611	67,659	111.6%

指標 5	25 年度実績 (A)	27 年度実績 (B)	比率 B/A	目 標 (30 年度)
インターネット アクセス数	1,319,000 回	1,321,333 回	100.2%	1,583,000 回

○「インターネットアクセス数」はトップページビュー数を指標としており、27 年度後半からやや数値の減少が見られる。それに対し蔵書検索ページのアクセス数は堅調に伸びてきており、27 年 9 月からトップページビュー数を超えており、検索ページへ直接アクセスする利用者が増えていると考えられる。

○28 年度以降も、魅力的な企画展示や講演会、イベントなどの情報を積極的に発信するとともに、県図書館が所蔵する貴重資料等のデジタルアーカイブ化を進めるなど、コンテンツの充実を図り、トップページの機能についても見直していく必要がある。

VIII 平成27年度事業の点検・評価及び平成28年度事業計画

1 すべての県民への図書館サービスの提供					
指標	1 ◆利用登録者数	平成27年度 45,798人 (平成25年度比 98.4%)			
指標	2 ◆遠隔地返却の利用数	平成27年度 2,871冊・点 (平成25年度比 114.1%)			
運営方針				平成27年度	
項目	行動目標			事業計画	
(1) どこでも、いつでも、誰でも使える図書館	ア どこでも、いつでも使える図書館	県図書館に来館することが難しい県民に対するサービスを充実させ、愛知県図書館を身近にします	1	協力貸出を申し込んでから届くまでの日数を短縮します	市町村立図書館への搬送便の週2便化を数館で実施
			2	個人貸出を行っていなかった、地域資料を貸出できるようにします	実施計画に基づき地域行政資料の一部貸出を年度内に試行（新規）
			3	雑誌を協力貸出の対象とし、市町村立図書館で利用できるようにします	協力貸出の対象とする雑誌、貸出冊数、貸出期間等の具体的な方法案を作成
			4	遠隔地返却制度の対象範囲の拡大を図ります	新規参加候補の図書館との間で搬送計画を作成
			5	デジタル資料を積極的に導入します	①音楽配信サービスの提供 ②「貴重和本デジタルライブラリー」に順次新しいタイトルを追加
	イ 誰でも使える図書館	様々な生活条件を担っている人へのサービスを充実させます	6	県図書館での障害者、高齢者、外国人などへのサービスを拡充します	①マルチメディアデジターの導入（新規） ②テキストデジターの活用
			7	市町村立図書館との連携を深めます	市町村の図書館職員等を対象とした障害者サービスに関する研修を実施（新規）
(2) 地域の文化・産業を支える図書館	ア 地域資料の収集・保存・提供	地域資料の収集・保存に力を注ぐとともに、効率的に利用できる提供方法を確立します	8	地域資料を重点的に収集します（重点分野を年度ごとに決めて収集します）	市町村史誌を重点的に収集
			9	ホームページで公開している「貴重和本デジタルライブラリー」を拡充します	「貴重和本デジタルライブラリー」に順次新しいタイトルを追加（再掲）
			10	地域資料のデジタル化を推進します	市町村の図書館職員を対象とした資料のデジタル化推進に関する研修を実施（新規）
			11	ホームページ内に「愛知県関係資料ポータル」を新設します	「愛知県関係資料ポータル」を公開
	イ 愛知の産業の発展に貢献する資料の提供	産業の発展に貢献する資料を提供します	12	産業分野に関連する資料を重点的に収集します	愛知のものづくりに貢献する資料を積極的に収集
仕事や生活に役立つ図書館	(3)	県民が必要とする情報を速やかに提供するためのサービスの充実を図ります	13	情報の入手に有効なオンラインデータベースを積極的に導入します	新しいデータベースの導入候補の選定
			14	資料の配置や表示をより利用しやすいものにします	①AV室のサインの見直しと案内図の掲示 ②4階フロアの配置とサインの見直し

平成27年度		平成28年度の事業計画
達成状況	評価	
週2便化を昨年度の2館に加え、希望があった7館で試行を開始。この9館では日数の短縮が実現できている。	A	資料搬送の週2便化希望の市町村立図書館9館との試行運用を継続
貸出対象となる地域行政資料の選定、装備を完了し、当該資料(約600冊)の貸出試行を開始した。(3月)	C	◆新規 平成28年10月をめどに、試行(平成28年3月開始)の効果や問題点を確認し今後の方針について検討
協力貸出の対象とする雑誌は製本された雑誌とした。この製本雑誌の各冊データの点検を行ったが、貸出冊数・期間等具体的な方法案の作成までは至らなかった。	D	市町村立図書館への貸出冊数、期間、貸出可能な刊行年等の貸出案を作成する。合わせて、図書館システムの改修が必要になるため、その仕様を作成
来年度の遠隔地返却システム構築にあわせて対象地域拡大方針を作成した。	C	新規参加候補の図書館との間で搬送計画を作成
①音楽配信サービスを継続して提供した。 ②貴重和本デジタルライブラリーに新たに28タイトルを追加し、計143タイトルとなった。	C	①音楽配信サービスの提供 ②「貴重和本デジタルライブラリー」に順次新しいタイトルを追加
①寄贈されたマルチメディアデジターの受入れを行い、また編集用ソフトを購入し、研修会で紹介した。 ②テキストデジターについて朗読協力員に情報提供したが、その活用法について検討中であり、活用までに至らなかった。	D	①テキストデジターの試作を行い、運用について検討 ②障害者用資料の拡充を検討 ◆新規 ③障害者サービスに関する企画展示を開催
「障害者サービス研修会」を実施し、市町村立図書館職員及びボランティア他計79名が受講した。(1月)	C	県教育委員会や関係団体との連携による研修事業を実施
26年度からの継続で、入手可能な市町村史誌を収集し、必要に応じて複本についても収集を行った。	C	◆新規 地域の産業及び文学に関する資料を重点的に収集
貴重和本デジタルライブラリーに新たに28タイトルを追加し、計143タイトルとなった。(再掲)	C	「貴重和本デジタルライブラリー」に引き続き新しいタイトルを追加
「所蔵資料デジタル化研修会」を実施し、市町村立図書館職員等45名が受講した。(2月)	C	◆新規 地域の産業関係を中心とした資料の購入およびデジタル化を実施
ホームページに一般公開を開始した。(3月)	C	平成27に開設したポータルサイト内の連携機関リストの拡大、データ・リンク等のメンテナンス及び新規情報の追加
「ものづくり」に参考となる図書を1,781冊受入れた。	C	①製造業や農林水産業など従来タイプの産業分野に関する資料を充実する。 ◆新規 ②6次産業や7次産業など、今後の地方創生を担う新産業分野の資料の積極的収集
情報提供に資するデータベースについて、情報収集、トライアルなどを行い、導入候補としてMPAC(マーケティング情報データベース)、JdreamⅢ(科学技術文献情報データベース)及び医学中央雑誌を選定した。	C	昨年度選定したDB3種(MPAC、Jdream3、医学中央雑誌)に加え、既導入のDBの見直しを行い、今後の図書館サービスに必要なDBの組み合わせを検討
①AV室の案内掲示を改訂した。また、利用者検索用端末に新たに資料の所在場所を地図で表示させた。 ②4階フロアでは洋書を集結し、書架上の資料配置を適正なものにした。これに伴い、書架の表示を点検し、見やすいものに変更した。	C	効果的なサインと表示の見直しについて、館内の委員会で検討し必要な改正を実施

1 すべての県民への図書館サービスの提供				
運営方針				平成27年度
項目		行動目標		事業計画
（4） 若い人 に読書 の楽し みを伝 え、知 の力を 育てる 図書館		児童と大人の間に ある若年層に向け て、読書の重要性 を呼びかけます	15 若年層に向けた新しいイベントを開催します	見学者へのアンケートなどにより若年層からの意見を聴取し、若年層向けのイベントを開催
			16 インターネットを利用した若年層向けの情報発信を充実します	「てこぼん大賞」の投票など、利用者参加型コンテンツ等を用意
			17 高等学校など関係機関との連携や支援を実施します	①教育委員会や学校図書館関係者と連携し、学校図書館活性化事業に参画（新規） ②市町村の図書館職員を対象としたヤングアダルトサービス推進に関する研修を実施
（5） 生涯学 習を支 える図 書館	支上情ア 援へ力報 の向活	図書館を生涯学習 の場として活用で きるようにします	18 資料や情報を利用するための力の向上のお手伝いをします	利用者向けに図書館資料に関する講座を開催
	提活ボイ 供動の の機テ 会イ のア		19 ボランティア活動の機会を提供するとともに、ボランティアとの協働を充実します	①おはなし会サポーターの勉強会を開催 ②大人向けおはなし会の開催
	提シコウ 供ヨミ のニ の場ケ ー		20 資料や情報を媒介としたコミュニケーションの場の提供に努めます	利用者参加型イベントを実施

2 市町村立図書館等への支援				
指標 3 ◆ラストワン参加市町村数 平成27年度 42市町村 （平成25年度比 113.5%）				
運営方針				平成27年度
項目	行動目標			事業計画
提資（ 供料1 の）	広域的な観点に 立って資料の提 供・保存に取り組 みます	21	県内の図書館の所蔵資料に関する情報を迅速・的確に入手できるようにシステム等を整備します	雑誌・新聞総合目録システムの改良とデータの更新
クンい料除（ ト・ちの籍2 のブラ保さ） のプ ラ ス 存 れ る ジ ト と る エ ワ あ 資		22	県内最後の1冊となる資料を保存します	ラストワン資料の整理・受入を継続するとともに、参加館を拡大
（3） 運 営 の 助 言	市町村立図書館等 がより質の高い サービスを提供で きるよう、運営を 支援します	23	県図書館へのニーズを把握するため、職員による市町村立図書館訪問を実施します	市町村の中央図書館の1/3（16館）以上訪問
		24	図書館未設置町村の公民館図書室への支援を充実するとともに、自治体の理解を促します	図書館が設置されていない町村の公民館図書室等を訪問し読書活動の推進を働きかける
（4） 人 材 の 育 成		25	市町村立図書館の人材育成を支援します	①県教育委員会や関係団体との連携により研修事業を実施 ②市町村立図書館職員等を対象とした障害者サービス・デジタル化推進・ヤングアダルトサービス推進に関する研修を実施（新規）

平成27年度		評価	平成28年度の事業計画
達成状況			
体験学習・見学に訪れた学生(中学生以上)にアンケートを実施した。それに基づき「猫」をテーマのブックパーティを開催した。大学生など若年層の参加があったが比較的少数にとどまった。(2月)		D	①平成27年度のアンケート結果を生かした魅力的なイベントの開催 ◆新規 ②開館25周年の記念行事の中で若年層向けのイベントを開催
「てこぼん大賞」の投票に、ホームページ上に投票フォームを設置して、インターネットによる参加も可能とした。ツイッター発信などの広報に努めた結果、投票の2割弱がネット参加という結果になった。(9月)		C	「第5回てこぼん大賞」のホームページ投票フォームからの投票の受け付け継続と、PR活動の強化
①愛知県学校図書館活性化検討委員会に参画し、愛知県学校図書館活性化事業フォーラムの開催に協力した。また、連携事業ではモデル校3校に対して1,068冊、その他3校へ3冊の協力貸出をした。 ②ヤングアダルトサービス研修会を開催し、69名の参加があり、一定の評価を得た。(11月)		C	平成27年度の学校図書館活性化モデル事業の結果を踏まえて、学校図書館への支援を検討
調べ方講座「デジタル化資料を探す」を開催し、9名の受講があった。(12月)		C	利用者向けに図書館資料に関する講座を開催
①「読み比べ」をテーマにおはなし会サポーターの勉強会を開催した。(3月) ②企画展示の関連企画として「昭和」をテーマとした大人向けのおはなし会を開催した。(9月)		C	①おはなし会サポーターの勉強会を開催 ②大人向けおはなし会の開催
企画展示の関連企画として「武将」をテーマにビブリオバトルを開催し、発表者5名と聴衆17名の計22名の参加があった。(10月) 「猫」をテーマにブックパーティを開催し、9名の参加を得た。(2月)		C	◆新規 開館25周年の記念行事として、利用者参加型イベントの充実

平成27年度		評価	平成28年度の事業計画
達成状況			
県内図書館に、図書館システムを用いた新方式によるデータ更新を依頼して、8月に目録が完成した。	C	雑誌・新聞総合目録システムの速やかなデータ更新と確実なメンテナンスを継続	
①参加館は26年度より3市町村で増えて42市町村となった。 (6市町の図書館が未参加) ②16の参加館から855冊のラストワン資料を移管した。	C	あいちラストワン資料の受入・整理の継続と参加館拡大	
職員による市町村立図書館訪問を16館実施した。その他に、会議出席が6館、研修講師派遣を8館に対して実施した。	C	市町村の中央図書館の1/3(16館)以上訪問	
図書館未設置の豊山町と大治町を訪問し、支援に対する要望等の聞き取り調査を行った。	C	図書館が設置されていない町村の公民館図書室等を訪問し読書活動の推進を働きかける	
①県教育委員会が当館で開催した学校図書館活性化事業フォーラムに協力した。(2月) ②ヤングアダルトサービス研修会(11月)に69名、障害者サービス研修会(1月)に79名、所蔵資料デジタル化研修会(2月)に45名の参加を得た。	C	①県教育委員会や関係団体との連携による研修事業を実施 ◆新規 ②市町村立図書館職員等を対象としたデジタル化推進の研修を実施	

3 サービスを広げる図書館ネットワークの形成				
指標 4 ◆県内及び東海・北陸地区の協力貸出・相互貸借数 平成27年度 67,659冊・点 (平成25年度比 110.8%)				
運営方針			平成27年度	
項目	行動目標		事業計画	
ワネ報「(1)ネット・資料の情料搬	個々の図書館では実施できないサービスの充実を図ります	26	効率的な資料搬送ネットワークにより相互貸借体制を維持・発展させます	福井県立図書館との協定締結による東海北陸地区の定期搬送便の拡大 (新規)
ワネい「(2)ネットのぎわ	新たなネットワークづくりに力を入れ、サービスの輪を広げます	27	県内図書館等と連携したイベントの充実を図ります	県内公立図書館連携イベントとして「@ライブラリー」を開催し、共同で広報を実施
ワネ「(3)ネットの		28	図書館の関連機関との人的な連携を深めていきます	大学や行政機関と協力し、講演会や資料展示などのイベントを実施
ワネ応「(4)ネットの危機対応		29	県内外の図書館や図書館関係団体等との連絡調整に努めます	東海北陸地区図書館協議会等を通して関係を強化

4 図書館活動を支える県図書館の体制の整備				
指標 5 ◆インターネットアクセス数 平成27年度 1,321,333回 (平成25年度比 100.2%)				
運営方針			平成27年度	
項目	行動目標		事業計画	
(1) 拠点図書館としての資料の収集と保存	の多様な資料の収集	30	資料収集計画を策定し、市町村立図書館では購入しにくい資料などを計画的に収集します	県立図書館として必要な資料を精選して収集するための年度計画を策定し、計画的に収集
	料デジタル対応資料の収集	31	拠点図書館として必要とされる資料の拡充や保存に向けて行動します	①国立国会図書館デジタル化資料の閲覧等の開始 (新規) ②新規にデジタル化する古書等の候補の選定
	保蔵料の削減	32	資料の補修の方針を策定し、計画的に実施します	資料補修方針を策定
(2) 職員の育成と組織の育成と効率化	職員の育成	33	研修や人材育成を行うとともに、組織と業務を精査します	①障害者サービス・デジタル化推進・ヤングアダルトサービス推進に関する研修を実施 (新規) (再掲) ②館内レファレンス研修を10回実施
	り組織の効率化	34	組織運営の点検・見直しを行い、改善を図ります	平成28年度以降の適正な人員配置計画を策定
開発「(3)新たな図書館サービス	県民や市町村立図書館の意見を踏まえ、新しい方向性を探ります	35	新しい図書館サービスを調査研究し、先進的なサービスを試行します	①マルチメディアデジターの導入及びテキストデジターの活用 (再掲) ②来館しなくても利用できるサービスなどの先進事例の情報収集

平成27年度		評価	平成28年度の事業計画
達成状況			
福井県立図書館と7月1日に協定書を交わし、正式に定期搬送便の運行を開始した。これにより東海北陸地区の相互貸借資料の搬送ネットワークが完成し、県外への協力貸出数が大幅に増加した。(対前年度比129%)		C	①東海・北陸地区の定期便を継続する ◆新規 ②静岡県立中央図書館との定期便運行の試行開始
県内図書館共通イベント@ライブラリーとして、「虫の世界へ」は36館47イベント、「徳川家康 没後400年にあたって」は16館19イベントが実施された。		C	◆新規 ①博物館・美術館、公文書館、市町村立図書館等とのMLA連携推進についてのフォーラムの開催 ②県内公立図書館連携イベントを開催し、共同での広報を実施
①企画展示「大人の教養」に関連して愛知県美術館の学芸員によるミニレクチャーを開催した。(5月) ②県統計課と国勢調査20回を記念したキャンペーン活動を実施し、関連のミニ企画展示を開催した。(9月)		C	◆新規 県内図書館、博物館・美術館、公文書館等の地域の文化芸術資源を保管・活用している機関で、MLAに関する検討会議を開催
①東海北陸地区県立・指定都市立図書館長会議にて各館から出された協議事項について、報告と意見交換を行った。(9月) ②東海北陸地区公共図書館研究集会に2名を派遣した。(10月)		C	◆新規 平成29年度に当館で開催予定の東海北陸地区公共図書館研究集会の実施計画を策定する

平成27年度		平成28年度の事業計画
達成状況	評価	
県立図書館として必要な資料を精選するため、蔵書構成のバランスと重点収集を考慮した平成27年度資料収集計画を策定し、計画的に資料収集を実施した。(通年)	C	◆新規 県立図書館として必要な資料やデジタル化対象資料を収集するための年度計画を策定し、計画的に収集
①国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供を開始した。(5月) ②デジタル化する所蔵古典籍の候補の選定を完了した。	C	①国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供 ◆新規 ②地域の産業関係を中心とした資料の収集およびデジタル化を実施
資料補修方針の策定を完了した。(3月)	C	平成27年度に策定した資料補修計画に従い、必要な補修を実施
①ヤングアダルトサービス研修会・障害者サービス研修会・所蔵資料デジタル化研修会を開催し、当館職員を参加させた。 ②館内レファレンス研修会を10回実施した。	C	①デジタル化推進の研修等に参加。館内レファレンス研修を10回実施 ◆新規 ②新規採用職員育成プランの作成。司書職員全体の育成計画の見直しと研修計画の作成
協力業務体制を見直しにより、嘱託員を有効に配置替えして、全館の作業効率化を図った。	C	適正な人員配置によるサービスレベルの維持と専門的スキルの継承を目指す
①寄贈されたマルチメディアデジターの受入れを行い、また編集用ソフトを購入し、研修会で紹介した。テキストデジターについて朗読協力員に情報提供したが、その活用法について検討中であり、活用までに至らなかった。(再掲) ②図書館総合展に参加して、資料のデジタル化や電子書籍などの先進事例を調査した。(11月)	D	テキストデジターの試作を行い、運用について検討 先進事例の調査の継続及び収集した情報を元に新サービスを検討

4 図書館活動を支える県図書館の体制の整備					
運営方針				平成27年度	
項目		行動目標		事業計画	
(4) 利便性の高い施設づくり	快適・安心な施設づくり	快適に安心して使える施設をめざします	36	居心地良く快適に利用できるよう、施設環境を整備します	①閲覧席の椅子座面の修繕を順次実施 ②利用者の要望を踏まえ快適な環境づくりの方策を検討
			37	安心して利用できるよう、施設の点検・修繕を計画的に行います	①冷温水発生器の修繕 ②無停電電源装置の更新
	サービスを高める施設水準		38	サービスの水準を高めるのに必要な機能の整備に努めます	①閉架書庫の電動集密書架の保守体制の見直し ②優先順位を考慮した整備のための方針の策定
(5) 効果的な広報活動	広報手法の多様化	県図書館をより多くの方に知っていただくために、従来の広報手法に加えて新しい手法も展開します	39	スマートフォン対応のホームページを整備します	スマートフォン対応のページ増を検討
	利用者が集まる場所づくり	利用者の読書活動を支援する機能の充実に努めます	40	ホームページに子どもの読書活動を支援するページを設置します	子どもの読書活動を支援するページを順次拡充
	他機関との連携による情報発信	情報発信を新たなサービスの検討に活かします	41	他機関と連携して互いの開催事 の情報を発信します	①市町村立図書館等と連携した広報 ②他機関と連携した講演会や資料展示を通じて情報発信

平成27年度		評価	平成28年度の事業計画
達成状況			
①机椅子の修繕計画に従い、修繕を完了した(3月)、薬品を使った閲覧機の清掃回数を増加した。		C	①閲覧席の椅子の修繕完了
②利用者の要望により、5階飲食スペースに一人席を設置した。(9月)			②薬品を使用した閲覧機の清掃、ソファの張替え
①冷温水発生器を修繕をした。(7月)		C	◆新規 非常用充電機点検設備、自動火災報知設備改修工事を実施
②無停電電源装置を更新した。(2月)			
①今後の電動集密書架整備計画の基礎となる点検を実施することとなった。		A	◆新規 電動集密書架の点検と一部分の改修工事の実施(新規)
②計画的な施設整備の目途がたったことを受けて3か年の全館の施設整備計画書を作成した。			
各種イベントの申込みや「てこぼん大賞」投票フォームなどの対応ページを追加したが、イベントなど一時的なページ増にとどまった。		D	◆新規 ホームページのスマートフォン対応の拡充に向けて、他館の状況調査を踏まえ、コンテンツを整備
「子どもと本をつなぐ本のリスト」、「おはなし会で読んだ本のリスト」を作成し、公開した。(3月)		C	子どもの読書活動を支援するページを順次拡充
①市町村図書館と連携して@ライブラリーを2回実施した。		C	①市町村立図書館等と連携した広報の実施
②愛知県美術館の「月映」展(5月)や「ピカソ、天才の秘密」展(1-3月)に関する資料展示や講演会を通じて互いの行催事のPRを行った。			②他機関と連携した講演会や資料展示を通じての情報発信

IX 平成27年度事業の点検・評価集計表

『愛知県図書館の基本的な運営方針』（平成26年8月策定）の「V 事業計画の策定と点検・評価」に基づき、平成27年度事業計画の達成状況について、点検・評価を行いました。

今年度は昨年度の3段階の評価を5段階評価に改め、具体的には A：計画を大きく上回った(120%以上)

B：計画をやや上回った(110%) C：計画どおり(100%) D：計画をやや下回った(90%)

E：計画を大きく下回った(80%以下)としました。

役割	項 目	行動 目標数	評価				
			A	B	C	D	E
1 すべての県民への図書館サービスの提供	1 どこでも、いつでも、誰でも、使える図書館	7	1		4	2	
	2 地域の文化・産業を支える図書館	5			5		
	3 仕事や生活に役立つ図書館	2			2		
	4 若い人に読書の愉しみを伝え知の力を育てる図書館	3			2	1	
	5 生涯学習を支える図書館	3			3		
2 市町村立図書館等への支援	1 資料の提供	1			1		
	2 除籍される資料の保存とあいちラストワン・プロジェクトの推進	1			1		
	3 運営の助言	2			2		
	4 人材の育成	1			1		
3 サービスを広げる図書館ネットワークの形成	1 「資料搬送・情報」のネットワーク	1			1		
	2 「にぎわい」のネットワーク	1			1		
	3 「人」のネットワーク	1			1		
	4 「危機対応」のネットワーク	1			1		
4 図書館活動を支える県図書館の体制の整備	1 拠点図書館としての資料の収集と保存	3			3		
	2 職員の育成と効率的な組織づくり	2			2		
	3 新たな図書館サービスの調査研究・開発	1				1	
	4 利便性の高い施設づくり	3	1		2		
	5 効果的な広報活動	3			2	1	
項 目 計		41	2	0	34	5	0